

事例 5

高知県のアルコール健康障害の取組について

高知県地域福祉部障害保健福祉課

国税庁の調査によると、高知県は、成人一人当たりの酒類消費量が全国平均と比較して多く、上位にあり、酒国土佐と呼ばれるように酒文化が根強い。また、精神科医療機関の入院者の疾病別割合では、全国と比較してアルコール依存症が高い現状にある。一方、高知県では全国で初めて断酒会が誕生し、自助グループによるアルコール依存症の方への活動も活発に行われており、健康増進計画「よさこい健康プラン21」や「高知県自殺対策行動計画」においてアルコール健康障害における対策を明記し、官民協働による取組を進めている。

1. 現在行っているアルコール健康障害対策の取組

○アルコールが健康に及ぼす影響や適正飲酒・休肝日の設定の必要性について普及啓発

テレビ番組（県広報番組「県民ニュース」内の「健康づくりひとくちメモ」コーナー）でアルコール健康障害の観点から放送を行い、さらに新聞折り込み情報誌へ記事を掲載している。

○適正飲酒・休肝日等に関する健康教育

県政出前講座（県職員が実施する県民向け講座）等の機会を通じて、健康づくりのポイントを記載した「健康応援ハンドブック」を活用し、適正飲酒・休肝日の必要性やアルコールの作用等についての健康教育を実施している。

○アルコール依存症に関する普及啓発（H26～）

アルコール健康障害対策基本法の概要、アルコール依存症についての実態・病状・治療方法等について紹介する記事を地元新聞に掲載した。精神科医だけでなく、内科医の意見も掲載し、それぞれの視点からアルコール健康障害について考える内容とした。また、自助グループ・支援グループについての情報も掲載し、アルコール健康障害について、県民に広く普及啓発を図った。

また、アルコール依存症についてのパンフレットを作成し、配布を行った。アルコール依存症は治療が必要な病気であることや、症状や治療法について具体的に紹介した。自助グループや支援グループ、福祉保健所等の相談窓口についても記載し、依存症についての正しい理解を促すものとした。



新聞への掲載



作成したパンフレット



○アルコール健康問題に関する健康教育（H24～）

県内の全ての学校に配布している中学生向け健康教育副読本（H26～）、高校生向け健康教育副読本（H25～）に、